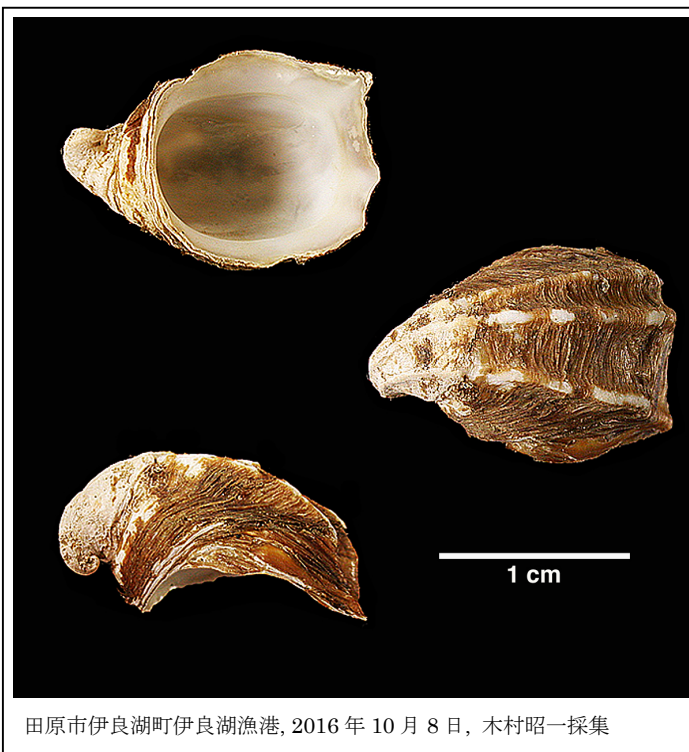


## イソチドリ *Amathina tricarinata* (Linnaeus)

### 【選定理由】

本種は、内湾の潮下帯砂泥地にすむ二枚貝類(タイラギ、イタボガキなど)に外部寄生する。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻がわずかに採集されたが、生貝は採集されなかった(木村, 1996)。近年、県内各地で殻皮の残された死殻が採集されるようになり(木村, 2017; 早瀬・木村, 2020)、知多半島内海海岸(伊勢湾)で生貝が確認された(佐藤・他, 2019)。しかし依然として生息域は著しく限定的で個体数は非常に少ない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



### 【形態】

殻長約 15 mm の笠型の貝。殻頂部から前縁部にかけて 3 本の強い肋が走る。殻は白色であるが、黄褐色の厚い殻皮に覆われる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

県内では長い期間生貝が採集されていなかったが、前述のように近年殻皮の残された死後間もない殻が採集されるようになり、生貝も採集された。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸、フィリピン、国内では房総・男鹿半島～九州に分布する(福田・木村, 2012)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では近年生貝をほとんど採集できない。宿主であるタイラギ、イタボガキも著しく減少しているため、危機的な生息状況といえる。近年採集されるタイラギの殻上には移入種のシマメノウフネガイの大型個体が多数付着しているため、種間競争の結果、同じ様な場所を生息場所とする本種が減少した可能性がある(福田・木村, 2012)。

### 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

### 【引用文献】

- 福田 宏・木村昭一, 2012. イソチドリ, p. 83. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2017. 伊良湖漁港内で採集された貝類. かきつばた, (42): 6-12.  
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.  
佐藤大義・浅田 要・永井 僚, 2019. 南知多町内海海岸(伊勢湾)の貝類相. かきつばた, (44): 20-30.

(木村昭一)